

水稻新奨励品種「つや姫」

作物グループ 川岡達也

○背景

本県水稻の基幹品種「コシヒカリ」は、近年平坦地域において、地球温暖化等の影響を受け、品質の低下が一段と顕著となっています。そこで、「コシヒカリ」と同熟期で高温登熟性に優れた高品質・良食味的水稻新品種の早期導入が強く望まれています。

これに対し当センターでは、平成22年から関係機関と協力して品種選定を進め、総合的に「つや姫」を有望としてきましたが、本年1月には奨励品種に採用されました。ここでは、「つや姫」の来歴や特性概要、栽培上の留意点について紹介します。

○来歴

1998年に山形県立農業試験場（現山形県農業総合研究センター水田農業試験場）において、「山形70号」を母、「東北164号」を父として人工交配を行い、その後選抜を経て育成されました。

表-1 「つや姫」の特性表

項目	つや姫	比) コシヒカリ
出穂期 (月・日)	7.29	7.30
成熟期 (月・日)	9.03	9.03
稈長 (cm)	73.9	85.4
穂長 (cm)	18.4	19.2
穂数 (本/m ²)	353	338
倒伏程度	0.0	1.9
葉いもち	中～やや強	弱
穂いもち	弱	弱
穂発芽性	やや難	やや難～難
高温登熟性	中	やや弱
玄米重 (kg/a)	56.8(99)	57.2(100)
千粒重 (g)	22.7	22.9
検査等級	2等上	2等中
外観品質	4.2	5.2

注) 1. データは平成21～23年の水稻奨励品種決定調査3年間の平均値。ただし、いもち病抵抗性及び、穂発芽性は中山間センター成績を含む。
2. 倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階。
3. 玄米重()内は玄米収量対コシヒカリ比率。
4. 検査等級は1～3等の上・中・下、規格外の10段階。
5. 外観品質は、1(上上)～9(下下)の9段階。

○「コシヒカリ」と比較した特性概要 (表-1)

- ・出穂期および成熟期はほぼ「コシヒカリ」と同時期です。
- ・稈長は「コシヒカリ」に比べて10cm程度短く、穂数は同程度です(写真-1)。
- ・耐倒伏性は「コシヒカリ」に優ります。
- ・葉いもちほ場抵抗性は「中～やや強」で、「コシヒカリ」に比べ優りますが、穂いもちほ場抵抗性は「コシヒカリ」と同じ「弱」です。

- ・穂発芽性は「やや難」で、「コシヒカリ」並かやや穂発芽しやすい傾向があります。
- ・高温登熟性は「中」で、「コシヒカリ」に比べ優ります。
- ・収量性は「コシヒカリ」と同程度です。
- ・検査等級及び玄米外観品質は「コシヒカリ」に比べ優り、整粒歩合は高く、乳白、基部未熟および腹白の発生は少ないです。
- ・食味官能試験による総合評価値は「コシヒカリ」に比べてやや優り、特に炊飯米の外観が優れます。

○栽培上の留意点

- ・「つや姫」の栽培は、育成地の山形県から、化学肥料および農薬を慣行栽培に比べて5割以上削減することを条件(特別栽培米)とされています。
- ・「コシヒカリ」に比べてやや穂発芽しやすいので、適期刈取に努めます。
- ・縞葉枯病に「罹病性」であるため、常発地での栽培は避けます。
- ・穂いもちほ場抵抗性が不十分なため、「コシヒカリ」と同様に多肥栽培は避け、適期防除を行います。
- ・心白粒が発生しやすいので、多肥栽培は避けます。

○今後について

県内平坦部を中心に、平成24年度の作付面積は約270haで、将来は3,700haまで栽培面積を拡大し、普及を図っていく計画です。



写真-1 「つや姫」の草姿 (左から、「つや姫」、「コシヒカリ」)